

三木特産工業技術研究会 平成16年度12月例会レポート

開催日：平成16年12月5日

場 所：東海バネ工業(株) 伊丹工場、堺 HAMONO ミュージアム



はじめに東海バネ工業株式会社を訪問しました。平成15年度関西 IT 百選において、最優秀に選ばれています。渡辺社長様から IT 技術導入のお話を聞きました。きっかけは外国企業を訪問された際の「目からウロコ」の体験や、時折々に適切なアドバイスをいただいた良き人との出会いがあったとか。「気づき」、「良き出会い」、「情報開示」といった言葉の数々が脳裏に残りました。

工場も見せていただきました。2年間かけて開発されたコイルバネ製造機械は圧巻でした。素材管理から加工、熱処理、仕上げに至るまで厳密な品質管理とともに、商品の全てが DB 化されているようでした。お客さまに安心をお届けするとおっしゃった社長様のお話しがうなずけました。

現在、最高品質のバネを最高品質のサービスで提供する企業方針で繁栄されています。近年 Web サイトの構築で新市場を開拓され注目されています。その根底には顧客と社員を大切にする社風があり、「オンリーワンのバネづくり」に社員一丸となって取り組まれている様子が強く感じ取れました。



堺では、包丁づくりの味岡刃物製作所、榎並刃物製作所、堺 HAMONO ミュージアム、それに線香づくりの(株)梅栄堂さんを訪問しました。刃物屋さんには近代的な町並みのなかに点在しているようで、通りを歩いていると見過ごしてしまうほどです。お店(工場)の玄関には小さな四角形の



「街角ミュージアム」の看板が掲げられています。この小さな看板には「見学者を歓迎します」といった親切さがにじみ出ていました。

榎並刃物製作所さんでは、鍛造作業を見学しました。コークス炉での微妙な温度調整、タイミングを見計らった材料の取り出し、ハンマーの打撃の強弱調節など、これら一連の流れの作業は真剣そのものでした。

高温で飛び散る火花、手足の俊敏な動作、一点を見つめる眼差し、額に光る玉の汗、そのなかには包丁一本一本への熱い思いが込められているようでした。ここでも匠の技のすばらしさや尊さを実感しました。

味岡刃物製作所さんでは、包丁の焼き入れや研磨作業について説明をしていただきました。焼き入れや研磨にはいろいろな工夫を凝らしていました。包丁づくりに関してのお話しには永年の経験と勘、実績、それに旺盛な研究心が加わり、丹精を込めて造るといった表現がぴったりの匠（たくみ）としての自信と誇りが

にじみ出ていました。三木も同じで、刃物産地同士で相通じるものがありました。堺の包丁づくりは、鍛造や研磨、研ぎ、柄つけなど、それぞれの製造工程を分業する形態がとられていました。

堺HAMONOミュージアムでは包丁を中心にした展示販売コーナーと歴史のコーナーを見ました。菜切り包丁、刺身包丁、出刃包丁などの様々な包丁が整然と展示されています。ビデオでの紹介もあり、ミュージアムとしての鑑賞の仕掛けは立派なものでした。ここでは、堺の刃物職人さん達の苦労や伝統技術を守りながらも顕微鏡による金属組織の勉強や包丁の切れ味テストなど科学の力を取り入れ、仲間同士でさらに研鑽されている努力の数々を垣間見ることができました。

梅栄堂さんでは線香のできる工程を見学しました。香木を粉末にする工程からはじまり、練り上げ、棒状に押し出し、裁断、乾燥の工程を経て完成します。香木原料は全て外国からの輸入とのことでした。堺では梅栄堂さんを含め13軒の線香づくりやさんがお有りだそうですが、これからも頑張っていきたいとおっしゃっていました。近年、お香は癒しの効果があるように言われていますので、いろいろな種類の香りが楽しめるように商品開発も進められているようです。ここでも人の勘や熟練の技が大切であるとお聞きしました。

